会長就任にあたつて

小林佐三郎*

この4月の通常総会におきまして，はからずも私が新しく第31代の鉄鋼協会会長に選任されましたが，誠に光栄と存じますとともに文字通り浅学菲才の私が古い伝統と輝かしい功績をもつこの学会の会長の任を全うすることができるかどうか，正直のところ，いささか心もとない次第であります．戦前から戦後の10年間位は，学会にも精々出席するように心掛けておりましたが，この10数年は殆んど顔を出すこともなく，何のお手伝いも致しておりません．従つて，最近の鉄鋼技術ならびに生産設備の急速な進歩発展の具体的な内容につきましては勉強不足というほかはないのが実情であります．

顧りみますと，鉄鋼協会と私との出会いは，昭和5年に北海道の室蘭で協会主催の講演会が開かれたときのことであります．当時，学校を出たての若造でありました私は，ビラ張りなど会場準備の下働きに忙殺された記憶があります．翌6年の秋に八幡で行われた大会に初めて会員として出席し，研究発表をさせていただきました．この時から鉄鋼協会と深いつながりをもつことになつたのであります．戦前のことはさておき，戦後荒れ果てて，食物にも不自由をしていました頃，丸の内の三菱仲14号館に仮住居しておりました鉄鋼協会の一室で今は亡き吉川晴十先生の呼びかけで製鋼研究会が開かれました．これがその後平炉への大量酸素使用の共同研究など多くの製鋼技術の進歩に役立つた製鋼部会の始まりで，当時のわが国の製鋼技術者は協力しあつて真剣に勉強したものであります．製銑を始めとして，あらゆる分野にまたがる鉄鋼技術共同研究会はこれから次第に拡がつていつたものであります．私も吉川先生の御引退のあと，短期間ではありましたけれども，製鋼部会長としてお世話させて戴いたこともあります．

しかしながら，私の勤務する日本製鋼所は高炉をもつた一貫製鉄メーカーとは異り，大型鋳鍛鋼メーカーという特殊な分野でありましたので，残念ながらその後の私の得た知識や経験はごく限られた狭い範囲のものであります．ここ10数年の間に世界の超一流の製鉄国に発展したわが国の鉄鋼協会の会長としては，必ずしも最適任であるとも思われず，内心面映い感がいたします．この4月6日の第1回理事会に出席した際，あらためてその感を深くした次第であります．

とはいいながら，今となってはつまらぬ私情は許されぬことであります．幸い先輩の会長，理事や委員の方々が立派なレールを敷いておられますし，田畑専務理事を中心に事務局も非常に充実しておりますので，その御支援によつて動き，ひたすらわが国の鉄鋼業界ならびに日本鉄鋼協会の発展に全力を傾けたいと存じます．会員各位の暖い御指導と御鞭韃とを心からお願いいたします．

* 株式会社日本製鋼所取締役会長